

テーマ別パスファインダー



遅れるな、論文投稿！



✦ パスファインダーとは？

Pathfinder（パスファインダー）とは、探検者／草分け／開拓者の意。レポート作成や論文作成で、何をすればいいのか、どこへ行けばいいのかわからない！そんな人のための助けになるように作成した、学問の「道しるべ」です。

作成日：2014年10月27日
大阪大学 外国学図書館 | 箕面キャンパス |
ラーニングコモンズ るくす | LSチーム

I. イントロダクション

学界は皆さんが思っている以上に競争が激しいです。自分が思いついたことぐらいは誰でも思いつくと考えた方が無難です。つまり、他の研究者はいつ自分の主張と全く同じ事を発表してもおかしくはありません。特に多くの人によって研究されているテーマではなおさらそうです。解決されずに残っている問題は少ないからです。そのように先を越されると、後から出すあなたの論文の評価はぐっと下がります。何年間も費やして研究し続けたことは業績の面ではほぼ無駄になってしまいます。もちろん業績を気にせず、自分だけのために研究していたらそれで済む話ですが、できれば避けたい事でしょう。

では何をすればいいかといえば、答えは一つしかありません！つまり、定期的に論文を投稿することです！

II. 研究はまだ終わっていないのに投稿するのか？

「私の研究はまだ全然終わっていないのに、論文を投稿しようというのをおかしくないだろうか？」と思うかもしれません。しかし、好きな学者の本を手にとってみましょう。その本はその人の研究の結晶です。新しい情報が満載ですよ。では、今度は同じ人が出した論文をさかのぼって数年分を見てみましょう。本の内容とほぼ同じことを言っていることに気づくでしょう。つまり、その学者はその研究の集大成となる本を発表するまで、少しずつ成果を発表していたのです。それは業績を取られないようにするためです。

もちろんそれだけではありません！定期的に論文を発表する事には他にも様々なメリットがあります。例えば、自分の存在をアピールする事が出来ます。論文を発表することによって対談、研究会などへ招待される可能性が高まります。というより、それなしではその可能性はほぼゼロです！また、研究の整理もできます。人は研究しているうちに目的を見失って、余計な寄り道をしてしまう事はよくあります。そういう時、論文を書いてみると、自分が一番やりたいことに改めて気づくでしょう。また、頭の中でうまくできている話もいざ書いてみると良く伝わらないか、説得力がないケースも少なくありません。それを少しずつ整理して発表すると、研究の最終段階はだいぶ楽になります。

つまり、論文は研究者の大切な道具の一つです。使用しないともったいないです！

III. では、何を書けばいいですか？

すぐにでも論文を発表したい時、論文の種類としては主に次の三つが考えられます。「日本のパン」の研究を例として、それぞれを見てみましょう。

1. 今まで研究してきて分かった事だけをとりあえず発表します。
「2014年度メロンパン事情」
2. 研究しているうちに身につけた知識を用いて、若干違うアプローチをとった論文を発表します。
「日本の小麦粉」
3. 資料を紹介します。
「『パン喰い絵巻』について」

【例はあくまでも架空である事、ご了承ください。】

IV. 読まれる論文を書きましょう！

論文はあなたの血と涙の結晶ではありますが、それを最初から最後まで読んでくれる人は意外と少ないものです。それはあなたの研究が面白くないからではなく、みんな忙しいからです。人は普通一つの部分を読み終えた後で次の部分に進むかどうかを決めます。そこで読者の興味を引くことができるかどうか勝負所です。人が学術論文を読むときの順番を意識して論文を書くと、最後まで読んでくれる人の数がぐっと多くなります。

人が学術論文を読むときの順番は大抵次のようになっています。

1. タイトル

人がまず読むのはもちろんタイトルです。学術論文の場合は、書店で並ぶ話題本のような、ただとにかく人の注目を引きそうなタイトルをつけるというのはいけません。タイトルで一番求められているのは明確さです。つまり、タイトルを読むだけで論文の構造から結論まで予想できると一番いいです。タイトルは遠慮なく長くすることができるので、研究方法から資料まで何もかもぎっしり入れてみたらいかがでしょうか。

2. 要旨

理想的な要旨では400字あまりで論文の全てが明確になっています。そうです、序論から結論まで全てです。要旨では細かい説明は必要ありませんが、ネタバレは大歓迎です。しかし、すべての雑誌が要旨を載せているわけではないため、スキップしていきなり序論を読む人も少なくないので、注意しましょう。

3. 序論

序論で読者が一番知りたいのは研究の対象、研究の方法、先行研究との違いと論文の構造の四つです。これを全部しっかり入れましょう。また、学術論文は推理小説ではないので、いきなり序論で結論を言ってしまうこともできます。

4. 結論

論文の全体を短くまとめた後、一番強調したい事を明確に書くことが大事です。結論を読んだだけでも、あなたの論文の主張を把握できるぐらいが理想です。（ここで本文ではない話や事例を入れてはいけません。）

5. 本文

読者がこれを読み始めたら、もうあなたの勝ちです。後は序文で書いた通り話を進めて、読者を裏切らないように注意すればいいだけです。

論文を書く時は読者を意識することはとても大事です。執筆中は目の前には相手がいないので、忘れがちですが、論文もやはり一種のディスカッションです。だからこそ相手を想定して、そして想像することが大切です。すなわち、どのような人がどのような気分でこの論文を読むかを想像してみましょう。その読者の知識もさることながら、気持ちや学術的立場も頭に入れて書くと、より面白い論文を書けるでしょう。論文は単に問題を解決するものではありません。他の研究者を刺激する機能もあります。それを上手に使うことによって、あなたの研究テーマを一層盛り上げることができ、研究がますます発展するかもしれません。

具体的に査読付き論文を投稿する時に注意すべきに点に関しては、LS等にご相談ください！

✧ [パスファインダーの凡例]

◀ 図書の情報は以下の順に表記しています。（主に論文の参考文献に使われている書式です。）

著者名（出版年）『本の名前』 出版社名， 翻訳者名（あれば）

◀ 説明の最後に、【 】で貸し出し可能な図書館と配架場所、請求記号を記しました。

総合図 → 総合図書館（豊中キャンパス）

生命図 → 生命科学図書館（吹田キャンパス）

理工学図 → 理工学図書館（吹田キャンパス）

人図 → 人間科学研究科図書室（吹田キャンパス）

外国図 → 外国学図書館（箕面キャンパス）

外国図-雑誌 → 直近1~2年に出版されたものは3階雑誌コーナー、バックナンバーは1階書庫

電 → 電子ジャーナル、電子ブック

※雑誌、電子ジャーナルは、すべての巻号が利用できるとは限りません。

◀ 検索を容易にするために、ISBN（各図書固有の識別番号）やISSN（各雑誌固有の識別番号）を記している場合もあります。

◀ 外国学図書館を中心に紹介していますので、記載している場所以外でも貸し出し可能な場合があります。図書館各階にある検索端末で確認するか、カウンター/LSデスクまでお尋ねください。